

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホームゆうけいスマイル
所在地 (県・市町村名)	大阪市住吉区遠里小野2丁目7番20号
記入者名 (管理者)	山下 義文
記入日	平成 20年 3月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>・運営理念</p> <p>一、明るくぬくもりのあるホーム</p> <p>二、清潔で安全なホーム</p> <p>三、地域に開かれた信頼されるホーム</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>・理念をスタッフの目の付くところに貼りだしている。</p> <p>・普段からの会議やミーティングを通して、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>・理念を面会に来られた方どなたにも見える位置に置いてある。また、運営推進会議や家族会、毎月郵送している新聞により理解していただけるようにしている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>・入り口には草花を植え、家庭的な雰囲気づくりを心掛け、毎日の散歩の中で、近所の方の理解を頂いている。</p> <p>・法人で行う、夏祭り等へご参加頂いている。</p> <p>・こども110番のシールを貼り緊急避難所としている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>・毎月地域で行っている、ふれあい喫茶やフレンドサロンへの参加。また、地域が出す広報に目を通し積極的に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・随時入居相談を行っており、入居できない場合においてもその他の相談や専門機関への紹介を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価を実施し、外部評価との相違に着目し改善するように取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議で利用者の状況やサービスの実際、問題点、外部評価の結果や大阪市の行う実地指導監査の報告を行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・随時、市や区役所への相談・報告をし市とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・研修を通し、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、必要な方にはそれらを活用できる支援体制を整えている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・研修等で虐待についての理解を深め、日々のケアの中から小さな傷や普段と違う雰囲気の変化に気付くよう心掛けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・契約時にその都度疑問点がないか尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。後日に疑問点がでも分かりやすく説明している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・日々の関わりの中で話し合いの機会を多く持ち、不満や苦情を聴く様になっている。また、ご自身でいい難い方は、ご家族に協力してもらい、ご家族からも不満、苦情を聴くようにしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・ご家族面会時に健康状態の報告をし、緊急時には電話で連絡している。毎月近況報告を手紙にしている。金銭においては、個人別の出納帳を作成し毎月面会時にサイン、押印をお願いしている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・苦情意見箱を設置している。また普段から苦情がいいやすい雰囲気作りを心掛けている。契約書内に、外部の相談機関の紹介も行っている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・ミーティングや毎朝の朝礼から職員からの意見や提案を聴く機会を設けている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>・シフト作成時から必要人員を確保している。また、緊急事態においては、併設事業所からのフォローや近隣在住のGH職員による応援に来るよう体制を整えている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・異動や離職のない環境づくりに心掛けている。異動があった場合(家庭の都合)、入居者の状況の変化に注意し、コミュニケーションを密に図る等し、影響を最小限にしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・法人内研修、外部研修に参加してもらい、研修後には研修内容の報告を行っている。毎日の業務の中で気付いたことをその場で指導することで、働きながらトレーニングしていくことも行っている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・グループホーム協議会、大阪市老人福祉施設連盟(グループホーム分科会)、住吉区社会福祉施設連絡会、を通じ、同業者と交流する機会を持ち、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・シフト作成の際には、希望公休を聞き休みが取りやすいようにしており、残業の少ない業務内容としている。 ストレスに対する研修にも参加している。 ・懇親会やその都度、上司と話す機会を設け、相談出来る様にしている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・各研修で知識を高め、得意分野に目を向けた担当につけるよう配慮している。正規職員への登用も上司へ相談し、正規職員登用の実績あり。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・入居希望者に実際にお会いし、不安なこと、求めていること等を本人自身から聴く機会を作り、希望の一覧表を作成しスタッフに周知する。ご本人の思いを聴くよう心掛けている。その人の生い立ちを少しでも熟知出来る様、生活暦や価値観をお聞きしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・ご家族の置かれている状況や環境を傾聴し、不安なこと、求めていること等を受け止める努力をしている。安心して入居頂けるよう努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ご本人ご家族の話しをよく聴き、適切なサービスはなにであるのか、複数の選択を例にし、ご本人ご家族が決断しやすいような他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・ご自宅に訪問し相談からご本人の気持ちをお聴きし、必ずご本人にホームの見学を行ってもらっている。サービス開始を急がせず、本人が安心し納得した上で入居できるよう、その方の人生観や判断基準を熟知出来る様努めご家族と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・ご入居者と共に共有し、ご入居者からの知恵や考え方を学ばせて頂いている。自立支援を念頭に、個人によってできること、できないことを見極め、支えあう関係を築いている。上からものを言う、下からへつらうでもないききな関係を築ける様に努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・状態の報告を面会時や電話、近況報告で伝え、日々の状況の理解、一緒にご本人を支えていく関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・ご本人、ご家族両者の意見をお聴きし、良い関係が築いていけるように支援している。ご家族にも行事と一緒に参加してもらえよう声掛けしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・事前に馴染みの人や場所をお聴きし、馴染みの場所に出掛けられる様会議で検討している。また気楽に来て頂けるようご案内している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・入居者同士の関係を日々の暮らしの中から把握し、一人ひとりが孤立せず、支えあえるよう食事の席や外出に配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・退居された例は死亡による1件のみであるが、必要に応じてご家族に手紙や電話で連絡をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・一人ひとりの希望を傾聴し意向の把握に努めている。困難な場合は、ご家族とともに話し合い本人本位の暮らし方や意向となるように検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご家族、本人から今までの生活歴や馴染みの暮らし、生活環境をお聞きし、スタッフ全員に分かりやすく書面にまとめ周知し、在宅生活の延長となるような経過の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・日々の過ごし方、心身の状態を毎日モニタリングし、月1回毎日行っているモニタリングの中から総合的に把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・毎日の朝礼の中から日々の気付きや、ご家族面会時の話し合い、カンファレンスの中からアイデアを反映した介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・状態の変化により、家族、必要な関係者と話し合い新たな介護計画書を随時作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の様子やケアの実践等を個別記録に記入し、職員同士の情報の共有、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・受診や買い物等の支援を、ご本人の要望に出来る限り対応するようにに努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・様々なボランティアとの協力を図っている。 (習字、消防訓練、救急救命法、図書館、サロン、喫茶等) (小中学校、博物館、公園、和会館、地域包括支援センター)等		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・地域とのケアマネジャーとの交流の機会を図るとともに住吉区社会福祉施設連絡会や、包括支援センターとの話し合いの機会を持ち、お互いに協力しあえるようにしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・包括支援センターの職員のご参加あり、運営推進会議を通じ、本人の意向や必要性に応じて地域包括支援センターと協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・前もってご家族にかかりつけ医の有無、希望を確認し、適切な医療を受けられるように支援している。 かかりつけ医の無い方には、併設の診療所にて週に3回往診にきてくれることで、希望により勧めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 併設の診療所に月2回、精神科の往診あり。ご入居者が認知症に関する治療を受けられるよう支援している。 		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 併設の診療所の看護師と相談しながら健康管理を行っている。 		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	<ul style="list-style-type: none"> 家族、かかりつけ医と相談を行い、病院関係者に診療情報を送り、ホーム内での内服薬や普段の生活について報告している。また早期に退院できるように努めている。 		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ早い段階からご本人やご家族、かかりつけ医と相談し職員全員で終末期のあり方についての方針を共有している。 		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ご本人、ご家族、かかりつけ医との話し合いの機会を持ち、本人や家族の意向、かかりつけ医の判断を整理しできる限りのことを行う。状態の変化に備えて検討や準備を行う体制を整えている。(酸素吸入の講習会等) 		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	<ul style="list-style-type: none"> 情報を共有し、長年過ごされてきた馴染みの生活スタイルを築き、できる限り自宅で過ごされていた家具をお持ち込みいただくことでダメージを最小限にするよう努めている。 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしている	・一人ひとりに対応した言葉掛けを行っている。 ケース記録は、パソコンによる一括管理を行っており、記録等の個人情報の取り扱いに注意している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・ゆっくりと話せる時間を設け、ご本人に選択してもらい納得しながら過ごせる様に支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一人ひとりのペースを大切に、食事時間や就寝時間、散歩、買い物、入浴等希望にそって支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・月に2回理容サービスに来てくれているが、ご本人の希望に合わせて、理美容院にも出掛けている。 ・身だしなみも状況に応じたおしゃれが出来るよう支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・一人ひとりの好みや力を活かしながら、調理・盛り付け・後片付けを行ってもらい、ご入居者自身で作る楽しみをもってもらえる様支援している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのお酒、飲み物、おやつ、たばこ等を一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・嗜好調査を行い、本人が望むものを日常的に楽しめるように支援している。お酒においては、医師と相談し内服薬との副作用がないか、一人ひとり状況に合わせて対応している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・一人ひとりの排泄の状況を把握し、個人にあった排泄ができるように支援している。安易におむつに、頼らないようにトイレへの誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴は毎日行っており、個人別にゆっくりと入浴してもらっている。可能な限り、夜間の入浴も行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・夜間不眠の方には、職員が隣りでゆっくりと話すようにし落ち着かしてから入眠してもらっている。 日中に適度に身体を動かしてもらい、適度な疲労感をもってもらうことで眠れるよう支援している。 場合により精神科医へ相談している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・残存能力や生活歴に目を向け、得意なことをして頂くことで張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・出納帳を作成し職員2名で管理しており、定期的にご家族に確認してもらっている。 ご本人、ご家族の希望により金銭を所持しているご入居者もいる。買い物の際は、ご自身で支払いをしてもらえるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・毎日の散歩や地域の喫茶店、スーパー等へ買い物に出掛けている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・事前にご入居者から行きたい場所をお聞きし、個別に出掛ける機会を多く持っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご入居者の希望に応じて、電話や手紙など自由にやり取りして頂いている。電話の頻度が多い方には、携帯電話の持参を勧めている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・訪問しやすいように、職員の挨拶の徹底や玄関周りの草花に工夫している。また、ご本人の居室で過ごして頂くか共有スペースで過ごす等ご家族の自由にして頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束改善計画を作成し身体拘束0を目指している。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・玄関の扉は主として外部からの侵入防止の保安のため、施錠している。ご家族に説明し承諾を頂いている。テンキー方式を使用しており、テンキーの番号を貼っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・夜間は2時間毎に巡回を行っている。日中はプライバシーに配慮しながら見守りを行い、所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・注意の必要な物品であっても、使用してもらう方、必要時に使用していただく方と一人ひとりの状態に応じて対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・研修や勉強会、避難訓練などで知識を深めており、緊急時の対応マニュアルと緊急連絡網を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・法人全体の研修にて救急救命士に来てもらい、普通救命講習を終了してもらおう等応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・避難誘導マニュアルを作成しており、ホーム前の中学校に避難するように協力を得ている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・面会時、カンファレンス時に起こり得るリスク(転倒等)について説明し、対応策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・1日2回のバイタル測定と普段の会話の中から日々の様子に変化がないか観察に努めている。異変時はご家族、主治医との情報を共有し、対応に結び付けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の説明書をファイルしており、また別に一覧表にして薬の効能をスタッフ全員が把握できる場所に張っている。服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・排便チェック表を作成し、便秘がちな方にはヤクルトや牛乳の購入を勧めている。普段から、散歩や軽体操を行い身体を動かす働きかけに取り組んでいる。それでも排便が見られない場合、かかりつけ医と相談し下剤を処方してもらっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後、口腔ケアを実施している。週に2回義歯洗浄剤による洗浄を行い、週に1回歯科衛生士によるブラッシングを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・一人ひとりの栄養量と水分摂取量を記録に残している。 ・栄養士の考案したメニューの提供、給食委員会を通じ一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援ができる様に工夫している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・感染症マニュアルを作成しており、併設の内科医を通しての勉強会を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・調理前の手洗いの徹底と調理用具の消毒を確実にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関前には、草花を植えベンチを設置している。玄関周りには、観葉植物を置き、親しみやすい雰囲気を作っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・木製を主とした色調、素材、安全性にこだわり、台所、浴室と家庭用のものを心掛けた整備をしている。 共用の生活空間に、こたつや観葉植物を置き、各食事用のテーブルには一輪挿しを飾り、生活感や季節感を採り入れている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・食堂のテーブルを3つに分け、こたつのコーナー及びテレビをゆっくりと見られるコーナーと共用空間においても独りになれたり、気の合った者同士で過ごせる居場所を工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・安全性に考慮しながら、居室に入る限り使い慣れた家具を好みに合わせ自由に入れて頂き、居心地よく過ごせる工夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・1日のうちに数回に分けて換気を行っており、各居室にも換気扇と空調を設置している。共用スペースの天井部分に脱臭機を設置している。温度調節においても、ご入居者の意見を聴きながら、温度の調整を行っている。食堂部分には床暖房を設置し加湿器を置いている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・共用部分には手すりを全周囲に設置している。トイレ、浴室にも手すりを設置している。 ・段差のないバリアフリー設計であり、庭への出入りも容易である。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・各居室、トイレ、浴室に表札をつけてあり、居室の場所を間違えやすい方には、ご本人やご家族と相談し飾りを付け目印にしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・ガーデンテラスでのバーベキューや、畑や野菜の水やりと、育った野菜の収穫を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

1ユニット9名のみで出来る限り個人に目を向けたケアが実現できるよう日々力を入れて取り組んでいる。その人らしい生活が継続できるよう必要に応じ3グループに分け少人数対応を行っている。食堂は大きな窓から光が差し込み、ゆっくりと談話を楽しみながら食事をとっている。ガーデンテラスでのバーベキューや菜園も楽しみの一つである。また、地域で行う行事には積極的に参加し、地域との触れ合いを深めている。また併設の大ホールで、様々な行事を法人全体で行うことで、色々な方との交流も可能。清潔面においても、毎日の入浴と可能な限り夜間の入浴も行っている。医療面においては併設の診療所（内科・外科・整形外科・精神科）があり、日常的な医療ケアに対応しており、通院の必要がなく便利である。